



2. 施工実績の整理

- ① 廃棄物処理施設の元請実績（自治体発注の焼却炉・RDFに限る）
 - ・タクマ・日立造船・川崎重工・三菱重工・JFE・クボタ・荏原製作所・新日鉄 他
- ② 乾式メタン発酵施設の前処理設備として実機での実証確認実績があること
 - ・タクマ・日立造船・川崎重工（3社）
 - [環境省 平成17年度 次世代廃棄物処理技術基盤整備事業]
- ③ 乾式メタン発酵施設（コンボガスシステム）の納入実績
 - 京都実証プラント（3t/日）
 - ・タクマ・日立造船・川崎重工・JFE・クボタ・IHI（6社）
 - 京都実証プラント運営委託（3t/日）
 - ・タクマ・日立造船・川崎重工（3社）
 - カンボリサイクルプラザ（50t/日）
 - ・タクマ（1社）
- ④ 自治体が発注した固形燃料化施設の納入実績
 - ・タクマ・極東開発・J-カトレル・住友金属・荏原製作所・JFE・神戸製鋼 他
- ⑤ プラスチック固形燃料化施設の運営実績
 - ・グリーンテック 他 産廃業者
- ⑥ プラスチック固形燃料の販売実績
 - グリーンテック 他 産廃業者
- ⑦ 自治体が発注したごみ処理施設のPFI受注実績
 - タクマ・日立造船・三菱重工・新日鉄・大成建設・荏原製作所・三井造船・日本碍子（8社）

報告資料

現在計画中の乾式メタン発酵+燃料化(+堆肥化)施設における、プラントメーカー各社の納入実績に基づく施設建設完工能力を設備毎に検証しました。宜しくご理解を賜りますようお願いいたします。

1. 求められる施工実績

現計画プラントの構成は大きく分けて下記の設備フローで表されます。

《処理フロー図》

一般可燃ごみ
 (プラ・木製品・紙・その他分別違反ごみ含む)
 市民の資源分別回収への取組みを推進していくものの施設の計画は分別の徹底が図れていない状態でも機能出来る現実的な計画が必要不可欠である。

機械選別設備
 乾式メタン発酵設備は固形物のままに発酵槽へ投入でき、水で多量に希釈することなくバイオガスを発生させることが出来るシステムである。そのため原料1t当たりのバイオガス発生量が150 m³N以上を発生できる施設には環境省の交付金対象施設である「高効率現燃料化施設」として、より多くの交付金が受けられる(通常 1/3 が 1/2)。
 このため発酵に適しない無駄な投入量を減らし、確実に1t当たりのバイオガス発生量が150 m³N以上を達成できる前処理設備の開発が求められた。
 また前処理を行うためのエネルギーロスが最小化できるよう簡易な方法を開発することが求められた。

乾式メタン発酵施設
 本計画での最も重要な基幹設備である。
 前項の機械選別設備乾式メタン発酵設備は固形物のままに発酵槽へ投入でき、水で多量に希釈することなくバイオガスを発生させることが出来るシステムである。そのため原料1t当たりのバイオガス発生量が150 m³N以上を発生できる施設には環境省の交付金対象施設である「高効率現燃料化施設」として、より多くの交付金が受けられる(通常 1/3 が 1/2 と優遇措置)。

《求められる施工実績》

- 1. 一般廃棄物処理施設の元請実績**
(自治体発注の焼却炉・RDFに限る)
 - ※ 厨芥類等の一般可燃ごみを扱う施設であり、臭気対策・発酵ガス・酸欠・転落防止等の安全対策の経験が必要。
 - ※ 環境省の性能指針や指導を熟知している必要があると共に、環境省の交付金申請業務等の経験が必要。
 - ※ 粗大ゴミ処理施設、リサイクルプラント等の施設は廃棄物の性状が全く異なる(厨芥類を含まない)ため実績としては不十分(焼却炉・RDF施設に限られる)
- 2. 乾式メタン発酵施設の前処理設備として実機での実証確認実績があること。**
 - ※ 自治体と共同で実際に収集されている一般可燃ごみでの実証を行った実績でなければ確認が持てない。
 - ※ 選別のみでなく、選別後の原料にて乾式メタン発酵施設での発生ガス量がバイオガス発生量150 m³N/t以上を確認出来ていなければ1/2交付金の確認が得られない。
 - ※ 本実証確認の成果が公に事実として評価され認められていること。
- 3. 乾式メタン発酵施設の納入実績**
 - ※ 本計画の最も重要な基幹設備であることから、実証レベルの納入実績ではなく、三豊市での計画と同レベル以上の規模での納入実績が必要。
 - ※ 実際に収集されているプラスチック・ビニール等を多く含んだ、ごみでの処理実績が必要。
 - ※ 実施設での発生ガス量がバイオガス発生量150 m³N/t以上を確認出来ていなければ1/2交付金の確認が得られない。